

技術部では、技術系職員の技能向上と知識・技術共有のため毎年研修会を開催しています。

今回は令和元年 8 月 26 日（月）にスポーツを題材にスポーツ・健康教育の渡邊和仁講師から「スポーツと健康の科学－運動生理学の視点から－」と題しご講義いただき、運動に伴う身体活動の変化についてセンサーを通して視覚化する実習を行いました。



渡邊和仁講師による講義



スポーツバイクによる運動

その後大学のプールに移動し、綿谷健佑技術職員を講師として「水辺環境における安全管理」をテーマに、川で人が流された場合の救助について救助具を用いた実習を行いました。

流され役の体に伸縮チューブを付けプール対岸から引張ることによって、川で人が流される状況を作り、その人を救助する想定で実習を行いました。救助役は救助具をいくつか試し効果を確認しました。

救助具として準備したものは、①市販品のスローロープ、②綿谷技術職員考案の簡易スローロープ、③ペットボトル（水入り、水なし）にトラロープを結び付けたもの、④ペットボトルのみ、⑤浮き輪、⑥ビーチボールなどです。浮き輪やビーチボールは風に流されやすく要救助者に届きにくかったです。一方、スローロープは 10 数 m 程度であれば目標通りに投げ入れることができました。スローロープは要救助者に当てるように投げることが基本ですが、投げ始めから実際に届くまでに要救助者が川下へ流されるため、気持ち川下側へ投げ入れることで要救助者にロープを届けることができました。

また、要救助者が投げ込まれたロープをつかんだ後、救助側もロープを引き込むのではなく、流れを利用して岸へと寄せて救助する方法も体験しました。ひとりでは要救助者の体重のほか流される力も加わるのでロープを持っているだけでも引き込まれないように保持するのが精いっぱいでした。



救助の様子（撮影：毛利）

この実習を通し水辺での起こりうる事故とその対処方法について身につけ、より安全にフィールドワークができるものと確信できました。



集合写真（R01/08/26）